

■ 第10講

総合テーマ：『自治体戦略としてのSDGsの活かし方』

日時：2020年1月14日（火）

会場：名古屋栄ビルディング 大会議室（12階）

■講師：三井 久明 氏（一般財団法人国際開発センターSDGs室長）

■テーマ：『自治体戦略としてのSDGsの活かし方』



2015年9月の国連サミットで、2030年までの世界共通の目標である「持続可能な開発目標(SDGs)」が採択されました。「持続可能な開発」とは子供や孫といった将来の世代の社会や環境が損なわれることのない開発のことを指します。

SDGsには気候変動やジェンダー平等などの17のゴールがあり、一つ一つのゴールにより詳細な内容を示すターゲットが添付されています。さらにその一段下にターゲットの進捗を測るための指標が添付される構成となっています。

自治体のSDGsの活用法として、(1)SDGsの文脈に沿った既存「優良」事例の整理、(2)経済・環境・社会面の開発状況を確認し、他との比較を行った結果の計画策定や民間との協働への活用、(3)SDGsターゲットに関連した事業を特定し、当該事業の進捗管理を通じた取組状況の把握、(4)SDGs取組企業の登録制度等による地域企業の振興の4つが挙げられます。SDGsを活用し、遠い将来像を考える視点を持ち、民間との協働の仕掛けをつくるのが自治体に求められています。

■講師：嶋田 宏之 氏（滋賀県総合企画部企画調整課 副主幹）

■テーマ：『滋賀×SDGs ～SDGsの普及と視点の活用について～』



滋賀県には近江商人の「三方よし」の理念、琵琶湖に対する環境保全に対する意識など、SDGsの考え方が息づいています。滋賀県では、その考え方とともに、人口減少・高齢化の進行、第4次産業革命、世界的な気候変動という世界・日本の潮流を背景として、「経済」「社会」「環境」の3つの側面からSDGsの特徴を生かした「滋賀県基本構想」を2019年3月に策定しました。

滋賀県庁内での具体的な取組として、(1)SDGsの趣旨や背景の理解、(2)事業の見直しや新たな施策を創出する際にSDGsの視点の活用、(3)SDGsの普及、の3つを挙げることができます。SDGsに関する主な施策として、経済分野では観光文化ルートを踏まえた「びわこサイクリング」、社会分野では子どもたちのコミュニティづくりのために県内の大学生と協働した「こども食堂」、環境分野では小学生を対象とした体験型環境学習の推進等が挙げられます。さまざまな分野の担い手がSDGsを通してつながる「人づくり」を通じて持続可能な滋賀を創っていくことが目標です。